



### パキスタン派遣報告 新分校と女子校より抜粋

女子が学校で学び母親になった時には、自分の子どもを学校へ通わせたいと考えるので、子ども達の未来のためにとても大切であるとアル・カイルアカデミーは考えています。また、交流会などで女子教育について質問があると「イスラムにおいて本来男女は平等とされています。女子教育の機会を作ることとはとても大切です」と話していました。

キャンパス3で学ぶ女の子と  
フォジア先生(右)とタスニム副校長(右から2番目)

### 目次

パキスタン派遣報告		東葛センター便り	8p
「新分校と女子教育」	2～3p	心根(こころね)フリマ通信「大古着市」	9p
「縫製工房の事業推進」	4～5p	「学校と卒業生」	10～11p
コンテナ送り出し・到着報告	6p	JFSAからのお知らせ	12p
千葉センター便り	7p		



### 新分校と女子教育

仕事を待つマズドゥーリー（日雇い労働者）たち  
道路の脇で建築現場の仕事に声がかかるのを待っている

海外事業担当事務局 依知川 守

#### キャンパス8の開校準備

アル・カイルアカデミーはカラチ市内に本校と6つの分校、カレッジ、そして北方地域に小さな幼児クラスを運営しています。各分校はマズドゥーリーと呼ばれる日雇い労働者が家族で暮らすスラム地域にあり、家族の収入は安定していません。子どもや家族にインタビューをすると、収入より支出が多い月が度々あるほどに厳しいという答えを聞きます。

また、各分校は、異なる民族の子どもたち同士が出会い、共に学ぶ場になっています。元々異なる民族同士の間には交流の機会は少なく、対立もあったそうですが、学校で子ども達の間には友情が芽生えることで、大人たちにも変化をもたらしていると言います。ムザヒル校長は話していました。

このように分校が広がる中で、アル・カイルアカデミーは本校周辺に多く暮らしているマハジール（インドとの分離独立時にインド側から移住した人々）とは異なる、部族社会の価値観にも出会ってきました。特にキャンパス3や5は、パロチスタン州から移住してきた民族が暮らす地域に開かれ

ており、家ではパロチ語が話されています。この地域では5年生位になると女の子が中途退学（学校自体は10年生まで）の中等教育する傾向があります。そのような状況を踏まえ、アル・カイルアカデミーは、キャンパス8の開校に向けた準備を始めていました。場所はキャンパス3から歩いて5分ほど。住民の主な仕事は守衛や左官職人、運転手などの労働者、そして羊飼いや引き売りです。

まずアル・カイルアカデミーは、キャンパス3に通う子ども達の家族にインタビューを行ないました。その目的は、パロチの人々の女子教育に対する考えを理解し、キャンパス3に通う女子生徒が中途退学する理由を確かめること、そしてどうすれば女子が学び続けられるかを検討することにあります。

学校による生徒の親達へのインタビューでは、女子の中途退学の主な理由について、以下の3点があげられています。①この地域では早期の婚約が多いこと②村の年長の特に男性が女子教育の必要性を感じていないこと③家族として男女共学の学校には通わせたくないことです。そして学校が親達に

「もし私たちが女子校を開校したら女の子を通わせませんか？」と質問すると、多くの親達からは「ぜひ通わせたい」、「少なくとも10年生までは修了させたい」という答えが返ってきたそうです。（実はこの地域には公立の学校もあるのですが、他の地域と同様に、教師が学校へ来ないなど、まともに機能していない状況だそうです。）

今回アル・カイルアカデミーは、キャンパス3周辺の住民たちの考えを聞き取り、彼らが共学の学校へ女の子を通わせることを心配する一方で、女子校が開かれれば通わせたいという意思を確かめました。そしてこの地域に「女子校」を開校することを決意しました。

#### 女子教育と女子校

アル・カイルアカデミーは女子教育について、女子が学校で学び母親になった時には、自分の子どもを学校へ通わせたいと考えるので、子ども達の未来のためにも大切であると考えてきました。またムザヒル校長が来日した際に、交流会などで女子教育について質問があると「イスラムにおいて本来男女は平等

とされています。女子教育の機会を作ることはとても大切です」と話していました。しかし、アル・カイルアカデミー「女子校」を開くのは初めてです。一方的に学校という器を作るのではなく、その土地に暮らす人々に出会い、子ども達や住民との信頼関係を作りながらその地域に合う形で根付こうとしているのだと感じます。なお、新たなキャンパス8の土地はすでに取得され、校舎の建築費用は、カラチ日本総領事館の「草の根人間の安全保障無償資金協力」から拠出が決まっています。

（私が帰国後には校舎の建築工事が始まった様子が写真で送られてきました。）開校予定は1年後とのことですが、小規模であっても教室がいくつか出来た段階でなるべく早く授業を始めたいとムザヒル校長は話していました。

今回、第8分校として女子校という教育の場が開かれることを通じ、JFSAとしてはパロチの人々の考えや暮らし、文化へも理解を深める機会にしたいと考えます。今後の経過については引き続き会報を通じてご報告いたします。

#### 大学に通うヒフザ

今回本校で過ごしていたら、アル・カイルアカデミーのカレッジを卒業し、今はアル・カイルアカデミーの支援を受けて海軍の大学に通っているというヒフザが顔を見せてくれました。彼女の父親は、リアカーで有価物を回収することを生業にしています。母親は数年前に病気で亡くなり、父親と兄弟とともに暮らしています。ヒフザは「将来はコンピュータエンジニアになりたい。自分が得た学ぶチャンスぜひ後輩達にも繋げたい。」と話しました。同行していたグリーンコープの方が「初めての給料をもらえたら何に使いますか？」と質問すると、しばらく考えて、「まずはお父さんに何かプレゼントして、あとは家族の皆に何かあげたいです。もしそれでもお金があったら自分のために何か買おうと思います。」と答えました。



アル・カイルアカデミーのカレッジで学ぶ女子生徒たち  
カレッジ：10年学んだ後に通う2年間の予科学校



ヒフザさん（左）と  
タスニーム副校長（右）

「縫製工房」の事業推進



アル・カイルアカデミーの中にある縫製工房

東葛センター担当事務局 小島 慧

縫製工房の見学

日本からの依頼を継続的に得るためにはどのような方法があるのか調査をする必要があります。そこで、今回の派遣の前に、日本の縫製業の市場がどのように仕事を得ているのかを調査しました。縫製工房と働いている人員や設備が同程度の規模の工房や、ブランドを立ち上げて、素材選びや縫製だけでなく、広告や販売も全て一人で行なう方の服の展示会などを見て回りました。そして、自分たちの作ることができる製品を買い手に見ってもらう事が重要だとわかりました。そこでk a p r e 柏店から依頼し、縫製工房で商品のサンプルを作成してもらい、年に2回開催しているバザールで展示、受注販売をすることにしました。展示品に関しては本誌の『東葛便り（8P）』で写真付きで紹介しています。

今後の派遣では、縫製工房で制作した商品を日本で販売するために日本とパキスタンの市場把握や、様々な商品のアイデアなどが必要となってきます。各方面で行なわせて頂いている活動説明会や、イベントでお話できる機会もあると思いますので、その時は皆様からの感想や提案のご協力もいただければ幸いです。

縫製工房で働くスタッフ



サルマさん  
縫製工房立ち上げからのメンバーで  
スタッフのリーダー。2人の子どもが  
アル・カイルアカデミーで学んでいる



アーディルさん  
縫製工房スタッフ  
検品や生地などの材料の調達を行なっている



ナディアさん  
縫製工房スタッフ  
子どもがアル・カイルアカデミーで学んでいる



ファハッドさん  
手織りの生地（カディ）を作る職人  
子どもたちに技術指導も行なっている  
彼が作った生地で工房スタッフが製品  
を作ったこともある



リズワナさん  
縫製工房スタッフ  
子どもがアル・カイルアカデミーで学んでいる



ムナさん  
縫製工房スタッフ  
サルマさんと同じく、工房立ち上げからの  
メンバー

縫製工房での仕事

今年度（2018年10月）からアル・カイル・アカデミー本校の中にある「縫製工房」の事業推進にあたってJFSAから私、小島が担当に就きました。縫製工房は主に学校に子どもたちを通わせているお母さんたちの働く場として機能してきました。今までも協力団体の方々から様々な製品作成の依頼を承ってきました。バッグやエプロン、JFSAのサポートグッズにも携わっています。2019年2月1日～2月14日の派遣では今までの仕事の流れや課題の確認、そして今後の方向性を縫製工房スタッフと打合せしました。

派遣当時、縫製工房には女性スタッフ6人と男性スタッフ1人、そしてミシンの調整を行なう技師1人の計8人がいました。残念ながら派遣中には全員のスタッフと顔を合わせることができませんでした。家の事情で働きに来ることができない時間帯や曜日、日数などが異なるためです。そのため、長く続けられる人もいれば数か月で来ることができなくなる人もいます。

ので、スタッフの中で縫製の技術にはバラつきがあります。今までの依頼においても日本で検品をしてみると、納品することができないものが少なくありませんでした。

自分が担当になるにあたって、縫製工房のリーダーであるサルマさんと、スタッフの中で唯一英語の話せるアーディルさんの二人と、今後の縫製工房の方向性を話し合いました。二人によると、現在行なっているパキスタン国内からの仕事の依頼は「ローカルカーム」（パキスタンの公用語でローカルの仕事という意味）と言われるミシンを使った内職です。本校の周辺のスラム地域でも行なわれていて、例えば服にボタンをつけ続けるといったような特定の部位の縫い付けをひたすら行なうことが多いです。日本からの依頼は、このような仕事よりも単価も上がり、大きな収益にもなるため、継続的に請け負いたいのことでした。また、外国から依頼を受けて仕事をしていることはとても誇らしいとも語っていました。

**古着屋さん**

前回の会報で、千葉センターの倉庫内、お店を改装しているというのを書きました。その後も改装は続き、最近になってやっと、お店の方も形になり、倉庫内の物の配置も決まってきました。

改装してからは、「お客さんから、「古着屋さんっぽくなったね」という言葉をよく聞きます。今までは何屋さんっぽかったんだろ〜:と思いつつその言葉を聞くと、嬉しくもあり、ちょっと複雑な気持ちでもあります。輸入古着が増えて、面白さが増したねという良い意味で言ってくださる方がいる一方で、これまでの、穴場的で自分だけの隠れ家のように感じていた場所が、多くの人に知られるようになってしまつて残念、という意味で言っている方もいるからです。

お店としては、もちろんたくさんの方々に知ってもらって来てもらいたいと思います。が、お気に入りのお店を皆に知られたくないというお客さんの気持ちもわかります。

両方の気持ちを汲み取りつつ、たくさんの方に来てもらえるお店にしていきたい、できるものなのかどうかと、日々悩んでいます。

改装した倉庫内の店舗  
輸入古着、男性物の売り場  
になっている



手づくりの看板を立てました



「軒先市」でやきそばを作る千葉ダルクのみなさん

千葉ショップ担当事務局 大橋紀子

**軒先市**

9月から始めた新しい試み「軒先市」は、古着の仕分けに参加している選別協力団体のオアシスと千葉ダルクが、活動の中で野菜作りをしているが、販売の場がなくて困っているというところから始まりました。毎月第2土曜日に開催していて、野菜販売以外にも、地域でお店をやっている方が食べ物や雑貨などを販売しています。古着ショップとは違う角度から人が集まる場を作るとともに、参加する団体やお店にとっても資金になるような場を作ることが目的です。

9月から始めて約半年が過ぎ、まだまだ集客は十分ではありません。雨でお客さんがほとんど来なかったことや、雪で中止にしたこともありましたが、4月13日の開催では、ダルクさんが焼きそばを作って販売するという新たな展開がありました。「安いよ、美味しいよ」という活気のある声かけで朝から大盛り上がりでした。もっとたくさんの方に来てもらえるよう、これからも力を入れていきたいと思っています。

## 第63回コンテナ送り出し報告

送り出し総量: 23トン103kg  
ボランティア参加人数: 28名



衣類や毛布などは50kg単位で圧縮梱包し、靴やつぶれやすい革のバッグなどは袋に入れて(重さ10kgほど)コンテナに詰めます。今回は価格の高い毛布を1250kg、バッグ類を1500kg詰めることができました。

「1点1点を手で仕分けをするんですね。大変ですね。」JFSAのセンターに古着を直接持ち込んだ方から、このように声をかけられることがあります。届いた古着などの選別は、手と目で確認をしながら分けていきます。この選別作業は、JFSAの事務局スタッフだけでなく、選別協力団体やアルバイトスタッフなど、多くの人が関わって進められています。

まず大まかな種類(といっても60種類ほど)に分けます。その分けられたものを状態や季節、男女などで分け、国内販売用とパキスタン輸出用にします。最終的には260種類ほどに分けます。確かに大変ですが、この作業がアル・カイルアカデミーの運営を支えます。そして、この活動はJFSAに衣類や毛布が届いて始めることができます。冒頭で「大変ですね」と声をかけられると書きましたが、タンスの中を整理し、受け付けている衣類かどうかを考えながら梱包し、JFSAまで届けてくださっている皆さんも「大変」だろうと思いますし、本当にありがたいという気持ちです。

JFSAでは9月末までにあと3回(そのうち1回は5月15日)、衣類や毛布の送り出しを計画しています。送り出しを実施するために、約50トン以上の衣類や毛布が必要です。今回、この会報に名刺サイズのカードを同封しています。お知り合いの方にも紹介していただくと助かります。



## 第63回コンテナ到着報告

卸売価格: 97ルピー/kg



卸業者の倉庫に到着したコンテナ

通常のスケジュールだと、日本を出港したコンテナは、いつかの港に寄り約1か月後にパキスタンのカラチ港に到着します。それに合わせて、事務局をパキスタンに派遣します。しかし今回のコンテナは、春節(中国の旧正月)に重なってしまいました。春節の間はコンテナを動かすことができないため、本来の予定より1か月半ほど遅れてしまい、派遣期間中(3月6日~14日)では荷下ろしに立ち会うことができませんでした。

3月15日、AKBG事務局のカユーム氏から写真とともに、無事作業が完了したと報告がありました。今回は通関での荷下ろし検査もなく、荷物のダメージもありませんでした。(荷下ろし検査をされると、荷物が汚されたり、中身のチェックのためにカバーが破かれることがあります)作業にはカユーム氏以外にもアル・カイルアカデミーのスタッフのアサド氏、ナヴィード氏が参加したそうです。

価格交渉は派遣中に1度行ないましたが、妥結には至りませんでした。帰国後、カユーム氏から97ルピー/kgに決まったという報告を受けました。この売上から海上運賃や税金を差し引いた利益が学校の運営費になります。



荷下ろしを手伝うアサド氏(前)と卸業者のニアーズ氏(後ろ)

## 大古着市

JR船橋駅北口のデッキを使用して、「大古着市」という支援バザールを年に2回(4月・11月)開催しています。1997年に第1回が行なわれ、20年以上継続しています。船橋駅は乗降客数が千葉県内ではトップで、周辺には大型商業施設もあって、人通りの多い場所です。そこに「大古着市」と銘打って、その名に恥じないようにトラックとハイエースに満載の品物を持って販売します。

大量の品物だけに、準備(品物を道路から2階デッキまで運ぶ→陳列)、販売、片付けの作業は協力してくれる人が必須です。これには毎回、まさに「助っ人登場!」というに相応しい人たちがアルバイトやボランティアで参加してくれています。会員の方や協力団体の方、学生ボランティア、ご縁につながった方々、20年の歴史の中では本当に大勢の人たちが参加して、いっしょに汗を流してくれました。

支援バザールでは駅前の利点で、初めて会う人たちに会えることが大きな特徴です。普段、古着に馴染みのない人たちからは「え!こんなに安くいいの!?古着なの?新品みたい!」という声が聞かれます。ぜひJFSAの店舗やフリーマーケットにも足を運んでもらえるようにとご案内を渡しています。また、古着回収のアピールにとっても新しい方に直接お伝えする貴重な機会になります。

今年度の1回目は4月6日(土)7日(日)に開催しました。2日間とも晴天に恵まれ、目標売上を達成することができました。2日間で計12名の方がアルバイトやボランティアで参加をしてくれました。今回は、古着の選別協力団体のNPO法人セカンドスペース・ふなばし地域若者サポートステーションの職員の方も2名参加してくれまし

た。この団体は働くことに悩みを抱えている若者のサポートをしていて、今後、支援バザールを就労体験の場として活かせないかと考えています。

また、パキスタンより輸入したGジャンなどもたくさん持っていきました。その販売に役を買ってくれたのが、千葉ダルクのJさんに描いてもらった看板です。千葉ダルクは薬物などの依存症からの回復プログラムとして、古着の選別作業に参加しています。Jさんは将来イラストレーターや物づくりの仕事に携わりたいと考えていて、看板制作に協力してくれました。後日、看板が目立ち、お客さんが入ってきてくれた事をJさんに報告すると「昔、よくあの辺りでやんちゃしてましたね、僕の分身が役に立ってよかったです!」と喜んでくれました。

支援バザールは古着販売、活動紹介、さまざまな人の参加・交流を目的にしています。まだまだいろいろな可能性があると思います。これからも関わる人たちといっしょに支援バザールを作っていきたいです。

千葉センター担当事務局 入江 賢治



千葉ダルク Jさんの看板

## JFSA出店の主なフリーマーケット会場

大井競馬場 (品川区勝島) 味の素スタジアム (調布市西町)  
 世田谷公園 (世田谷区池尻) 赤羽公園 (北区赤羽)  
 千葉銀座通り (千葉市中央区) 日産スタジアム (横浜市港北区) など



古いテントから作ったバッグ



オリジナルの手刺繍されたジャケット

## 展示会

東葛センターでは年に2回行なわれるイベント「kapreバザール」に合わせ、1週間期間を設けて活動の展示を行なっています。展示の1つは回収協力団体「オイシックス・ラ・大地株式会社」の豊島洋さんがパキスタンを訪問した際に撮影した写真です。豊島さんはJFSAの理事でもあります。子どもたちの授業風景や、パキスタンで暮らす人々の様子が写真に納まっています。もう1つは「服を楽しむ展示」と銘打って、既存の服に手を加えた作品の展示です。一度人の手を離れた服に手を加えて、新しい形に変わっています。縫製工房の作品も展示しています。

2019年5月3日の東葛センターのバザールに合わせて行なわれる展示では、縫製工房の作品が今までで一番数多く飾られます。エプロンやトートバッグなど、協力団体の皆様から注文いただいたものだけでなく、リメイク作品として和服地から作ったアロハシャツや巾着袋、エコバッグ、古いテント生地から作ったバッグなど、様々な作品が展示されます。一部の製品は販売もしています。



和服から作ったアロハシャツと巾着とエコバッグ

今年度(2018年10月から2019年9月)は、縫製工房の事業基盤をしっかりとさせることを目標にしています。バザールだけでなく出店や活動説明会など、折を見てアピールしています。縫製工房で働く人たちとしっかり連携して、活動の力にしていきたいと思っています。

東葛センター担当事務局 田辺航太郎

# 学校と卒業生

パキスタンのスラムにある学校、アル・カイルアカデミーは1987年にムザヒル校長が10人の子どもたちといっしょに始めました。現在は、本校の他にカラチ市内に6つ、北部の山岳部に1つの分校、そしてカラチ市内にカレッジが1校あります。生徒数は4500人、スタッフの数は200人です。



遅刻した子どもたちと話しているヤスミンさん（右）

彼女もアル・カイルアカデミーの卒業生。優秀な生徒で、カレッジを卒業後アル・カイルアカデミーの先生として働きはじめました。現在は先生を指導する“教務主任”として働いています。

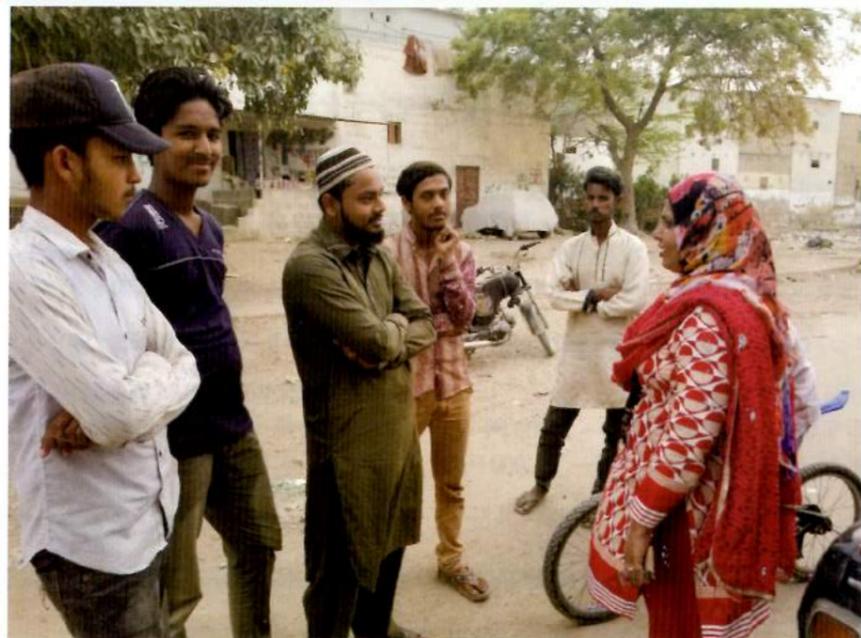
ヤスミン先生が遅刻した理由を子どもたちに尋ねると、「お母さんが病気で病院へ行っている。」「夜、停電が続き眠れなかった。」と答えました。ヤスミン先生は遅刻する子どもたちにカウンセリングを行なっているそうです。「子どもが無断で休んでも先生から怒られたりはしません。理由をしっかりと聞くことが大切です。悩みの相談にもります。8、9、10年のクラスは特に厳しくして、原則として休むことが禁じられています。休む場合（体調が悪いなど）は、その理由を学校へ直接連絡するよう伝えていきます」と教えてくれました。



アル・カイルアカデミーの休み時間 給食室で作ったサモサを買っている女の子。学校の中や外でスナックやサモサ（揚げ物）を買って友だちと食べている子もいる。



アル・カイルアカデミーの職業訓練校の先生だったサジッド氏の工場働く青年。彼らは職業訓練校で学んだアル・カイルアカデミーの卒業生。学校の発電機はここから仕入れたもので、何かトラブル（故障）があった際は、学校の近所に住んでいる彼らが駆けつけてくれるそうだ。



卒業生のお宅を訪問した帰り道。タスニーム副校長と歩いていると、通りのあちこちから卒業生が声をかけてきた。この学校が作ってきた生徒との関係が現れているように感じた。（卒業生たちは近況を報告している様子だった。）中には私たちのために走ってジュースを買いに行く青年もいた。タスニームさんが制止しても言うことを聞かなかった。



アル・カイルアカデミーのあるスラム地域。水道がないため、水を売っている業者から水を買ひ、屋根の上の青いタンクに水を貯めて使っている。



本校の門番をしている男性と彼の子どもたち。この子どもたちもアル・カイルアカデミーで学んでいる。



アル・カイルアカデミーを始めたときの10人の子どもの1人だったママダリさん（右奥）と家族。ママダリさんは今も学校の近くで暮らしている。



## JFSAの会員・支援メンバーを募集しています

JFSAは正会員及び賛助会員（支援メンバー）で構成されています。  
（正会員 個人：130名、団体：12 賛助会員 個人：1039名、団体：5 2019年3月末現在）  
正会員によって活動の様々な事柄が決定され、賛助会員の協力によって活動が支えられています。  
そして皆さんの参加が、パキスタンの人々との連帯事業を推し進める力になります。

会員・支援メンバーの方には、会報・回収案内（年3回）、サポーターグッズ（年1回）をお送りします。

### ●年会費（10月～翌年9月）

個人：会員 5,000円 / 支援メンバー 2,000円  
団体：会員 50,000円 / 支援メンバー 10,000円

### ●会費振込み口座（郵便振替）

番号：00160-7-444198  
口座名：JFSA  
\*活動への寄付にも同じ口座がご利用できます。  
通信欄に「寄付」とお書き添え下さい

## JFSAでのボランティアのご案内

### ★コンテナ送り出し★

●6回コンテナ送り出し  
日時：5月15日（水）8時～15時半頃  
場所：JFSA千葉センター  
（中央区都町3-14-10）  
※力仕事以外の仕事もあります

### ★イベント★

●チャリティバザール  
日時：6月9日（日）8時～16時頃  
場所：JFSA千葉センター&大田切公園  
（中央区都町3-14-10）  
※餅のつきて、かき氷の作り手募集中

### ★その他のボランティア

- コンテナ送り出し作業（年4回）
- イベント・フリーマーケットなどでの協力（週末）
- 切手やハガキの整理
- 会報など発送作業（年4回）
- 古着の選別体験（グループ対応）
- 和服整理ボランティア（毎月第1水曜日10時半～）

### ★ボランティアに関する問合せ先

**JFSA事務局**（木曜定休 9時～19時）  
電話・FAX：043-234-1206  
メール：jfsa@f3.dion.ne.jp  
ホームページ：www.jfsa.jpn.org  
\*ボランティアは無償です。  
交通費や食費はご自分で負担していただいています。

## JFSAの古着ショップ「kapre」（10時半～19時 木曜定休）

メンズ・レディース・キッズ・雑貨…いろいろそろってます！

### ●千葉店

千葉市中央区都町3-14-10 電話：043-234-1206

 インスタグラム  
⇒「jfsa\_usedclothing」で検索！

 フェイスブックにて  
⇒「古着屋JFSA」で検索！

### ●柏店

柏市大室176-1 電話：04-7110-0984

 インスタグラム  
⇒「kapre.usedclothing」で検索！

### ●オンラインストア

kapreonline.theshop.jp

## NPO法人 日本ファイバーリサイクル連帯協議会（JFSA）（9時～19時半／木曜定休）

千葉センター 千葉市中央区都町3-14-10  
Tel：043-234-1206

東葛センター 柏市大室176-1  
Tel：04-7110-0984

★ 会報についての感想やご意見もお気軽にお寄せください。

電話・fax：043-234-1206 メール：jfsa@f3.dion.ne.jp ホームページ：http://jfsajpn.org



JFSAのホームページ